

取り組み事例

「THE世界大学ランキング日本版」の「教育充実度」のスコアが高い大学は、学生の学びや成長を可視化して、積極的に教育に生かしていると考えられる。「教育充実度」上位3大学と今回取材した3大学に、学生調査の活用について尋ねた。

教育充実度が高い大学の学生調査活用例

学生調査と教育力の可視化 2

大学	国際教養大学	国際基督教大学	筑波大学	お茶の水女子大学	昭和女子大学	公立はこだて未来大学
<p>実施している学生調査 (在学生だけでなく、卒業生向けも含む)</p>	<p>▶教学調査[Exit Survey on Academic Matters]:卒業・修了を控えた学生が対象。大学が掲げる教育目標と関連し、学修の探求方法や学位方針の達成度を学修段階別に確認するほか、授業内の能動的学修経験の度合いや授業外学習時間など多角的な視点で自己評価▶授業評価:学部・大学院を通じて全ての科目で每学期実施。設問は大学の教育目標と関連付けており、当該科目を履修したことによる学修達成度を、学生が自己評価▶学生満足度調査:毎年11月に在学中の全学部生、院生対象にWebで実施。学生の学修・生活全般の満足度測定▶就職ガイダンスアンケート:毎年1回、就職活動を始めた学生が対象▶卒業後の個別キャリア相談</p>	<p>▶入学時調査:毎年4・9月に新入生に対しWebで実施。志望度や進学理由、アドミッション・ポリシーに即した能力をどの程度有しているかを確認▶1年次調査:毎年3・6月に進級前の1年生に対しWebで実施。1年間の学修成果や教育満足度などを確認し、初年次教育の効果を把握▶学生学修意識調査:毎年4月に新3年生に対してWebで実施。2年間の学修成果や教育満足度などを確認し、メジャー(専攻)選択前の教育効果を把握▶卒業時調査:毎年3・6月に卒業前の学生に対しWebで実施。学修成果や教育満足度を確認し、大学全体の教育・サービスの向上に活用▶同窓生調査:数年おきに実施。大学教育が卒業後の進路に与えた影響などを確認し、教育効果を把握▶授業効果調査:毎年6・11・2月にWebで実施。教育効果の把握と授業改善の参考、FDに活用▶進路に関するアンケート:毎年卒業前の学生に対して実施。次年度の進路活動支援の向上に活用</p>	<p>▶大学院新入生アンケート:志望理由、学修・研究内容、福利・厚生等を調査▶授業評価アンケート:全学的な教育PDCAサイクル構築の一環として、2016年度以降全ての開設授業科目で実施▶学群卒業生・大学院修了生アンケート:全学的なFD活動として実施。学修環境、授業内容、福利・厚生、課外活動等に対する満足度、志望理由等を調査▶卒業20年の卒業生アンケート:ホームカミングデーの際に実施。卒業後のキャリアと大学での学修との関係、現在および今後の筑波大学に関する期待等を調査▶学生生活実態調査:生活全般のさまざまな項目について調査</p>	<p>▶学修行動比較調査:毎年10月に1・3年次を対象に実施。教学比較IRcommonsにて調査実施、基本集計を行い、参加大学間のデータ比較も可能▶卒業生調査:大学法人評価の際に実施(直近は2016年に実施)▶授業評価アンケート:毎年前期と後期に2回Web授業アンケートシステムにて実施(回答率ほぼ100%)▶新入生の生活に関する調査:毎年▶学生生活とキャリアに関する調査: (随時、直近は2018年に実施) など</p>	<p>▶授業改善(大学)・大学院FDアンケート:毎年前・後期で実施。学生の自己評価と授業・研究環境などへの意見の両面を調査▶学習時間・学修経験に関するアンケート:毎年7月に1・4年次を対象に実施。本学の教育を受けて得た学修成果を測ることが目的▶進路動向調査:4年次で進路未定および不明の学生に対して紙で年4回実施▶卒業生の就業動向調査:卒業後4・8年目の卒業生に調査票を郵送で実施▶就職適性対策テスト:3年次全員を対象に4・11月に民間のテストを実施。就職活動に必要な筆記試験の能力を把握し、就活支援に活用▶昼食および学生食堂に関するアンケート:毎年7月に学生食堂の改善を図るために実施▶学生意識調査:2016年度に生活と健康に関する意識を把握することを目的に実施。本年度も実施すべく検討中▶新軟オリエンテーションアンケート:毎年4月に新入生を対象にオリエンテーションの成果を把握▶プロジェクト活動事前・事後アンケート</p>	<p>▶新入生アンケート:毎年入学時に全員実施。広報戦略に活用▶授業評価アンケート:毎年前・後期で実施。授業改善に活用▶卒業生アンケート:2017年度実施。学修成果と社会で求められる能力の把握▶英語力調査:英語外部検定を年2回実施▶数学学力診断テスト:1年次の必修科目で実施。フォローアップが必要な学生を把握▶プログラミング学習調査:1・2年次のプログラミング科目で実施。学びの振り返りに活用▶論理的思考力調査:1年次の必修科目で実施▶オリエンテーションアンケート:毎年入学時に全員実施。オリエンテーションの効果の把握▶プロジェクト学習アンケート:3年次全員必修科目であるプロジェクト学習において、配属時、中間発表時、最終成果発表会後に実施。学習ポートフォリオとして、学びの振り返りに活用</p>
<p>担当部署、体制</p>	<p>▶教学調査および授業評価:教務課が所管。結果は個々の教員へのフィードバックだけでなく、執行部や各プログラム・課程長と共有し、次年度の教育改善に活用▶学生満足度調査:学生課が所管。結果は関係部署と共有し、現状把握と改善策を検討▶就職ガイダンスアンケートおよび卒業後の個別キャリア相談:キャリア開発センターが所管▶IR担当官が、各種調査・データについて横断的な分析を行い、経営・教学両側面での意思決定の一助としている</p>	<p>▶教学IRについては学修・教育センターが調査の実施とデータ分析を行い、理事・行政者および全教職員に結果を共有。各部署で改善策を検討・実施。教育・サービスの向上に生かす▶全学IRについてはIRオフィスが担当</p>	<p>▶大学院新入生アンケート、授業評価アンケート、学群卒業生・大学院修了生アンケート、卒業20年の卒業生アンケート等の学生調査:全学FD委員会が調査の実施とデータ集計を行い、分析したデータ結果を全学および各教育組織において検証し、教育・研究・学生生活等の改善に活用▶学生生活実態調査:学生生活支援室と学生部を中心に調査の実施とデータ分析を行う</p>	<p>▶教学IR・教育開発・学修支援センターで調査の実施、結果分析、ホームページなどの情報公開を行っている。毎年3月にFD・SD研修会を学外公開で実施し、その概要をビデオで公開</p>	<p>▶授業改善・大学院FDアンケート:FD推進委員会が実施▶学習時間・学修経験に関するアンケート:教務部▶就職適性対策テスト:キャリア支援センターで実施▶昼食および学生食堂に関するアンケート、新軟オリエンテーションアンケート:学生支援課で実施▶学生意識調査:学部委員会内の調査部会が実施▶プロジェクト活動事前・事後アンケート:現代ビジネス研究所が毎年度プロジェクトに参加する学生を対象に実施、データを蓄積</p>	<p>▶さまざまな組織・委員会が調査の実施とデータ分析を行い、改善を生かしている</p>
<p>学生調査の活用例</p>	<p>▶教学調査:結果を基に、教育研究会議および大学院研究科運営委員会において、実施方針の適切性や改善が必要な課題について検証する機会を設け、各プログラム、課程、領域内で共有し、カリキュラム編成の改善に活用▶各課程別の平均値を算出して課程・プログラム内での検証の一助としている▶学生満足度調査:学生生活環境の向上と学生サービス充実のために活用▶就職ガイダンスアンケートをふまえたキャリア支援▶卒業後の個別相談をふまえた在学生へのキャリア支援</p>	<p>▶SGU到達目標の達成指標として活用▶全学的なFD活動への活用▶学生の教育満足度の分析結果を各パートメントやプログラムと共有し、授業内容やカリキュラム構成の改善・新コースの設置の検討材料として活用。結果を各関係部署に還元し、学生の学修・生活環境の改善に活用▶学生が抱える問題の早期発見・対応に活用</p>	<p>▶FD活動への活用:大学院新入生アンケート、授業評価アンケート、学群卒業生・大学院修了生アンケート、卒業20年の卒業生アンケート等の学生調査は本学のFD活動の活性化と情報の共有のために毎年作成している[「筑波大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書」]の基礎資料とし、各教育組織間において情報共有。今後のFD活動の見直し・改善等に活用▶学生生活実態調査:学生の経済状況を把握し、今後の経済支援に参照。図書館に対するサービス向上のために参照</p>	<p>▶学生が学修状況(成績およびその変化)をチェックできるalagin、授業評価アンケート結果を基にしたnigala dashboard、学修行動比較調査ファクト分析を学内Webで公開し、常時フィードバックできる体制がとられている▶調査結果をふまえて学修・生活環境・学生支援の見直しや改善を随時行っている</p>	<p>▶授業改善・大学院FDアンケート:学科ごとのFD活動、各教員の授業改善、専攻の研究環境改善に活用▶進路動向調査:4年次の進路未定および不明の学生の状況を把握し、進路支援に活用▶データは各種調査の報告用としても利用▶卒業生の就業動向調査:OGを招いたイベントや講座の選定等、在学生の進路・キャリア支援で活用▶学生意識調査:報告書を作成し各学科に配布。学生の意識や実態を知るために利用▶プロジェクト活動事前・事後アンケート:PBLの学習効果の分析。PBL推進への活用</p>	<p>▶必修科目における論理的思考力調査の結果を、入試制度改革で、新たな選抜方法の導入に生かした▶新入生アンケートの結果から、オンラインキャンパスの業務ごとの学生配置を入試区分に合わせて行った</p>
<p>教育の改善改革例</p>	<p>▶教学調査の結果をふまえたカリキュラム編成の改善・見直し▶IR担当官による横断的な分析をふまえた、入学前教育の実施・改善</p>	<p>▶卒業時調査:英語開講授業の見直しに活用▶各学生調査:低GPA学生の傾向を把握。退学に至る前の面談への活用を検討中▶各学生調査:日本語論文執筆コースのニーズが判明、カリキュラムに組み込んだ▶授業効果調査:コンフリクトの少ない時間割構成に改善▶学生調査と教務データを横断的に分析し、英語での卒論執筆へのハードルを下げるための施策につなげた</p>	<p>▶比較文化類では学生独自の授業評価アンケートで科目重複など改善要望があり、カリキュラム構成に反映▶工学システム類では毎年ティーチング・ポートフォリオを作成・提出。各教員が自発的・継続的に教育改善を実施▶歴史・人類学専攻では教員が教育体制・研究環境・設備等に関して各領域の学生の意見を聞く懇談会を開催。増加する留学生のために外国語表記を拡充▶リスク工学専攻では達成度評価委員会で、学生に履修状況の報告を義務付けた。学生の要望については、授業内容の改善を学生側から提出できるしくみとして授業モニタリング制度を設置。リアルタイムで対応▶エンバワメント情報学プログラムでは学生生活実態調査の結果や履修状況を分析、新規科目を開設</p>	<p>▶2008年度にスタートした[「文理融合リベラルアーツ」科目群]について、2016年に学生調査を行い、履修実績と合わせて問題点を分析。全体として満足度は85%を超え、改革の成果を確認し、系列別の演習をより自由な課題設定による[「リベラルアーツ演習」]に再編し、アクティブ・ラーニングを強化▶授業評価アンケート結果に基づきコア情報科目を再編・強化</p>	<p>▶授業改善では教室の定員改善を実施。大学院では、パソコンおよび周辺機器の整備を実施。教員はアンケート結果に基づく改善を各自行う▶学習時間・学修経験に関するアンケート:専門的な分析、経年比較も行ったうえで、教務部委員会でフィードバック。授業担当教員には、結果に留意し授業運営を行うよう直接呼びかけている。同じ母集団の1年次と4年次に調査を行うため、学生自身が大学の学修で身に付いた能力がわかる。各学科では授業内容やカリキュラム改訂の際に参照。併せてカリキュラムツリーの作成を行い、カリキュラム開発に取り組む▶進路動向調査:学生に適した個別進路支援を行う▶就職適性対策テスト:結果を基にクラス分けを行い、レベルに応じた対策講座を実施</p>	<p>▶プロジェクト学習、プログラミング学習等重点的に取り組むプログラムについては、授業改善だけでなく、学生の振り返りに活用、メタ学習につなげている</p>
<p>情報公表 (对学生／対高校や高校生、社会)</p>	<p>▶Webサイトで各種の情報公開▶学生満足度調査等の結果をふまえた大学運営の改善については、学生生活委員会等を通じて大学と学生間での継続的な対話の機会を設けている</p>	<p>▶学生調査:学生および一般向けに学修・教育センターのWebサイトで概要を掲出▶学生向けに学生調査の結果を基に改善した事例について報告▶授業効果調査:学内Webに公開され、学生が履修計画を立てる際に活用</p>	<p>▶筑波大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書:FD活動の一環として実施した各学生調査の結果は、各教育組織間で情報共有および社会に対し広報目的として公開▶学生生活実態調査:Webサイトで調査結果を掲出</p>	<p>▶授業アンケート:個別結果および全体集計を学内Webで公開▶大学のWebサイトに調査結果を掲出▶学生に対しては、調査結果や改善点をWebサイト等で告知</p>	<p>▶授業改善アンケート:授業ごとに作成する改善報告書は学内Web、学科ごとに作成する学科別改善報告書はWebサイトで公開▶大学院FDアンケート:専攻ごとに作成する改善報告書は学内Webで公開▶学習時間・学修経験に関するアンケート結果:学内Webで公開▶進路動向調査:把握した進路状況はWebサイトや各種広報媒体で公開▶学生意識調査:報告書を各学科に配布</p>	<p>▶学生向けに学内Webで授業評価アンケートを公開。過去10年以上の結果を公開</p>